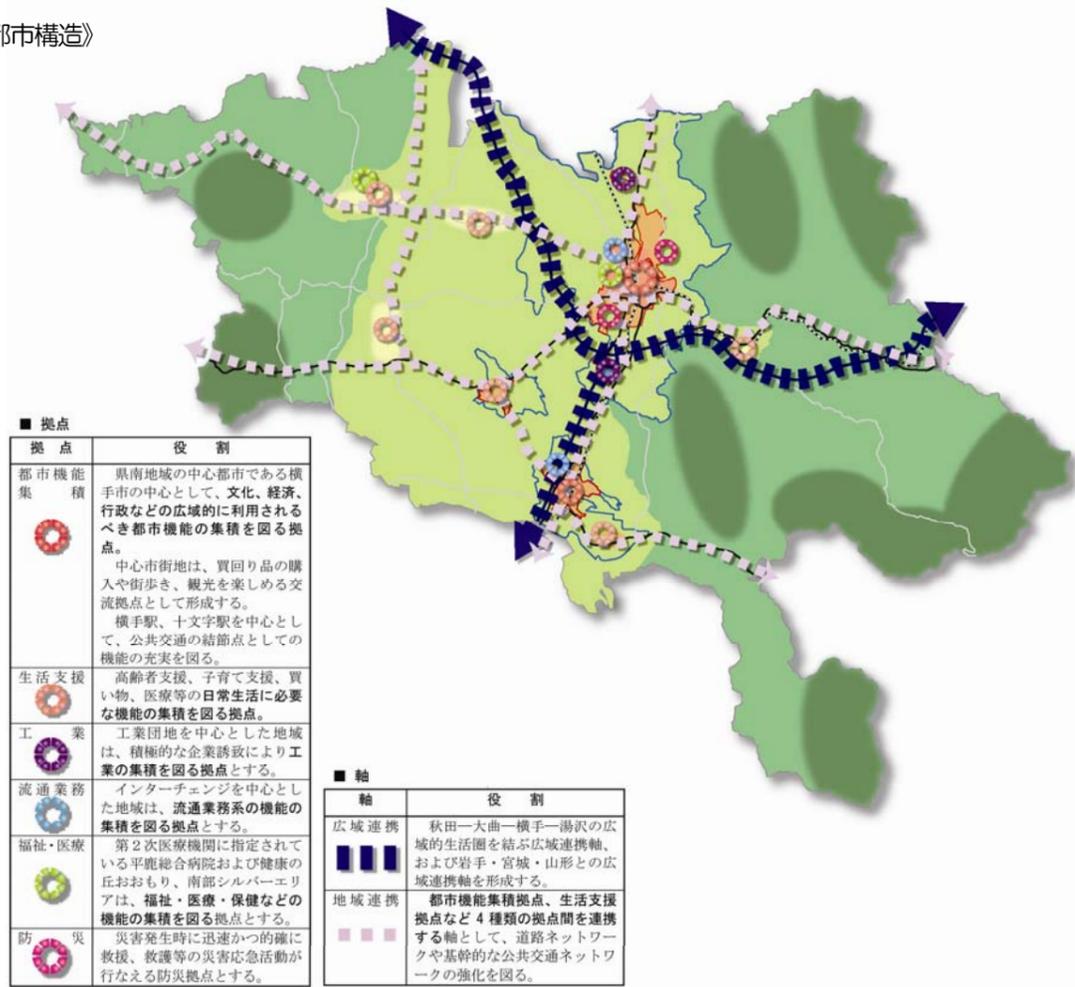


3. 横手市の将来像（横手市都市計画マスタープランより）

◆横手市都市計画マスタープランの中で、2つの都市機能集積拠点、6つの生活支援拠点とともに、広域的生活圈を結ぶ広域連携軸、都市機能集積拠点、生活支援拠点ほか4拠点間を連携する軸が位置付けられている。

《将来都市構造》

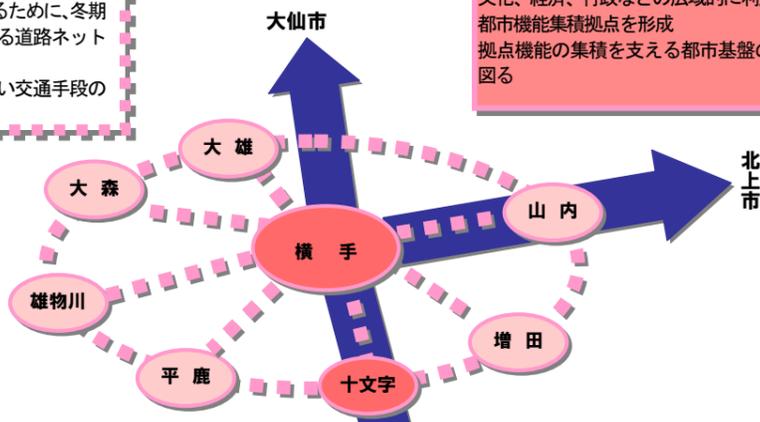


＜地域連携軸＞

地域間の連携を強化するために、冬期間も安心して利用できる道路ネットワークを形成  
高齢者等も利用しやすい交通手段の検討

＜生活支援拠点＞

高齢者支援、子育て支援、買い物、医療等の日常生活に必要な機能を集積  
冬期でも歩きやすい道路環境またバリアフリー化の推進など、高齢者も利用しやすい生活支援拠点を形成



＜都市機能集積拠点（十文字）＞

交通結節点としての機能集積を活かし、都市機能集積拠点を形成  
拠点機能を支える都市基盤の整備充実を推進

＜都市機能集積拠点（横手）＞

県南地域の中心都市である横手市の中心として、文化、経済、行政などの広域的に利用されるべき都市機能集積拠点を形成  
拠点機能を支える都市基盤の整備充実を図る

＜凡例＞

- 広域連携軸
- 地域連携軸
- 都市機能集積拠点
- 生活支援拠点

4. 交通ビジョン作成

—基本理念—

雪につよく、高齢者も安心・安全な地域交通環境の実現

—基本方針—

基本方針1：地域間連絡を支援するための交通環境の形成  
冬期においても地域間連絡の定時性、安全性を確保するとともに、高齢者等も利用しやすい交通環境の整備を図る。

基本方針2：中心市街地の安全で快適な魅力ある移動空間の創出

交通結節点として、最も重要な地域であるため、交通機関相互の連絡性の向上を図る。また、中心市街地の通年での円滑な自動車交通処理の推進を図るとともに、高齢者を含む歩行者が安全・安心を確保して移動できる交通環境の整備を図る。

—施策目標—

・地域間を連絡する放射半環状道路網の構築  
・高齢者等も利用しやすい交通環境づくりのための公共交通機関のサービス水準の向上  
・冬期間でも安全で定期的な通行を確保するための雪対策の推進

■自動車交通・公共交通の視点  
・冬期でも安全・安心に走行できる車道空間の確保  
・交通結節点の機能強化  
■歩行者・自転車の視点  
・冬期でも安心して歩行できる空間の確保  
・高齢者等が移動しやすい空間の整備  
・歩いて楽しむことができる空間の整備  
・自転車利用の環境整備

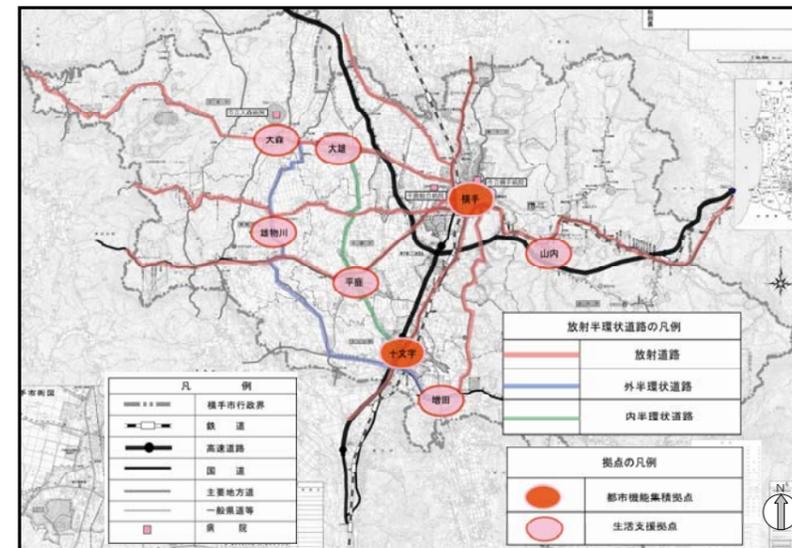


図-10 放射半環状道路

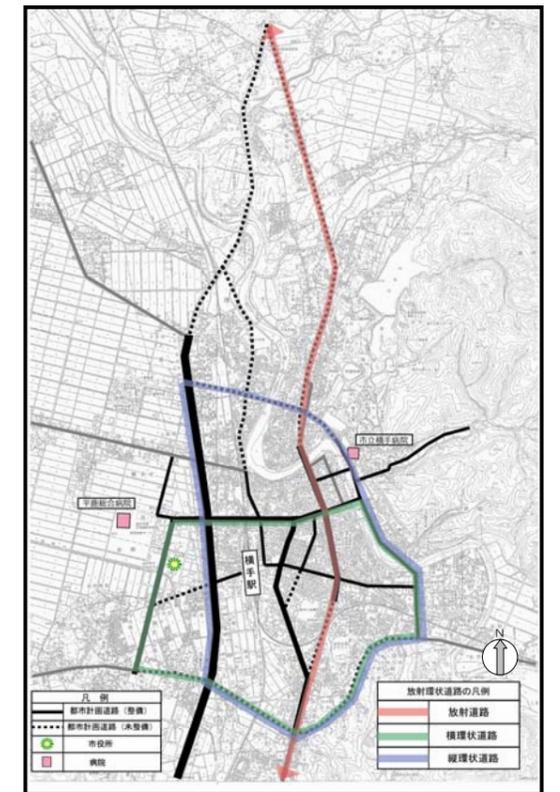


図-12 自動車の視点に立った交通環境の整備

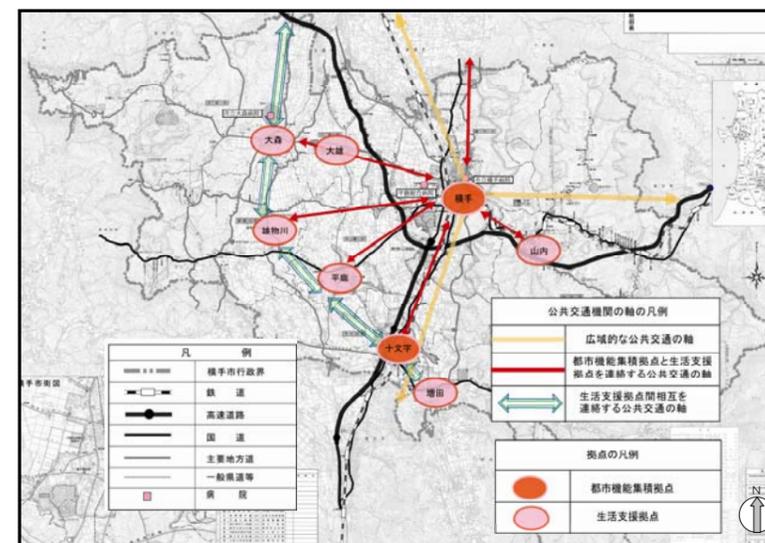


図-11 公共交通関連のネットワークパターンイメージ



図-13 歩行者・自転車の視点に立った交通環境の整備